

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	4270135157
法人名	医療法人長寿会
事業所名	グループホーム本原一丁目
所在地	長崎県長崎市本原町1 3-5 (電話) 095-860-0505
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年 2月18日

【情報提供票より】（平成20年10月 1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 19年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算4.1人

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー造り
	4階建ての 2～4階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	8,100 円
敷金	有(円) 〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,000 円		

（4）利用者の概要（ 2月18日現在 ）

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 80 歳	最高 95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人長寿会清原龍内科 朝永整形外科 角町歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周辺には商店街や公園など地域の生活圏内に位置している。4階建ての最上階がリビングなど共有スペース、2・3階が居室という特徴がある。リビングは日当たり、景色もよく、室内ソファでくつろいだり、生け花や広いバルコニーで園芸を楽しんだりと穏やかに日常を過ごしている。また気候や体調を考慮しながら一日一度は外出を心がけている。ホームは法人の運営理念を基に、ホーム独自で本年度重点目標を職員と共に作り、日々の介護にあたっている。管理者及び職員は介護姿勢に対しても前向きで自己目標をたて、それに向けた勉強会や研修を受ける体制も整っている。また、運営推進会議は地域の独居老人や介護に関する情報の収集・発信の場になってきている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善項目は改善シートを作成し、職員全員で改善方法を家族や運営推進会議を利用し多方面から考えや意見を収集し改善に向けた取り組みを実行し、前年度の指摘項目リビングの有効利用は積極的に取り組まれた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価を行う前に前回の外部評価の結果を改めて全職員が見直したうえで、各々自己評価を作成し詳細に自らの介護姿勢の振り返りに活かされている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 2ヶ月に1回、家族、自治会長、民生委員、包括支援センター、管理者、理事長、本部長の参加で開催されている。外部評価の結果や行事、研修報告、利用者の現状、職員の異動等の報告もあり、毎回活発な意見が議事録により見られた。資料も多くあり、認知症についての勉強会も実施されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の要望等は面談記録に詳しく記入され、全職員で確認し対応している。苦情窓口や第三者委員の設置もあり、積極的に家族の思いを聞き出す努力をしており、意見等は運営に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域との交流簿があり、自治会に加入し本年度は班長として、回覧板を回したり敬老会や清掃活動にも参加している。グループホーム周辺の草刈も町内住民が手伝ってくれたり、近くのスーパーへの買い物や公園の散歩で顔なじみになって、声をかけたり挨拶をかわしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基に本年度重点目標とし地域密着型サービスに重点を置き職員と「入居者様お一人お一人が最期まで豊かで自分らしい生活が送れるよう援助致します。ご家族の皆様とのコミュニケーションを十分に行い、ご家族の想いに沿った援助を致します。地域の皆様とのふれあいを大切にし、親しい関係を築いていくことで地域に根ざしたグループホームを目指します。」という理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各職員保有の業務マニュアルを作成し、日々の申し送りや毎月のスタッフ会議で職員の認識を深めており、職員は各々理念を基に目標を立てて日々の支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流簿があり、自治会に加入し本年度は班長として、回覧板を回したり敬老会や清掃活動にも参加している。グループホーム周辺の草刈も町内住民が手伝ってくれたり、近くのスーパーへの買い物や公園の散歩で顔なじみになって、声をかけたり挨拶をかわしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果を全職員で話し合い検討を重ねている。よい点は維持ができていくか点検し、見直し部分は改善に向け取り組んでいる。全職員各自で自己評価を記入し、具体的に活用できている。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族、自治会長、民生委員、包括支援センター、管理者、理事長、本部長の参加で開催されている。外部評価の結果や行事、研修報告、利用者の現状、職員の異動等の報告もあり、毎回活発な意見が議事録により見られた。資料も多くあり、認知症についての勉強会も実施されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員がホームに訪れる機会が多く利用者との触れ合いもある。市担当者とも、介護保険の更新手続きや入退居者の報告、情報交換を十分に行われている。また長崎市の介護相談員を年1回受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、本原一丁目プレスを発行し、利用者の生活状況、職員の異動や金銭管理報告等を家族へ定期的に郵送している。訪問の際は近況を報告し、変化があった場合はその都度、電話や口頭で連絡を取っている。遠方の家族へも電話やFAXを使い確認している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は面談記録に詳しく記入され、全職員で確認し対応している。苦情窓口や第三者委員の設置もあり、積極的に家族の思いを聞き出す努力をしており、意見等は運営に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動があるがアセスメント一覧表の作成により、利用者の詳しい情報を共有でき、各利用者の介助の仕方を申し合わせ混乱を防ぐように努めている。ホームでは各職員の介護や希望を認識するアンケートと面談を行っており働きやすい環境作りを目指している。		

グループホーム 本原一丁目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会があり、法人内の勉強会は毎月第二水曜日に二水会、偶数月の第三水曜日は長寿会セミナーを開催し、家族や他のグループホーム職員等の多数の参加がある。職員は実践勉強会や必要に応じた研修に参加できており、受講できなかった場合は資料により学習している。また個人研修計画書を作成し職員の希望の把握や実施に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っている。法人主催の研修や外部研修等を通して、同業者の職員や管理者との交流の機会は増えてきている。ただし、同法人の別のグループホームでは現職員が他施設への見学の機会が多くあるが、当事業所ではまだその機会がなく、自身が目指す相互訪問のレベルまで至っていない。	○	職員の介護に対する向上心が高く、より深い交流として他のグループホームへ利用者も含めての見学会の計画もあり、今後その実現に向け取り組まれることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体の病院からの利用希望が多く、本人の同意のもと家族がホームを見学している。現在の利用者にも新規利用者の紹介をしている。ホームは家族からの生活歴や看護サマリーをもとに情報を収集している。また馴染むまでは生活記録などの個人情報個人日誌一緒にとじ、随時確認ができるようにし、気づいた情報を追記し、職員間で共有するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩として生活の知恵やアドバイスを受けることが多い。料理の下ごしらえや盛り付け等を一緒にしながら、お茶の入れ方、言葉使い、挨拶の仕方、結婚感など教えられたり、励まされたりしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向は時間をかけ、ゆっくり聞くことで希望を言いやすい環境である。センター方式を取り入れ、担当を決め、より細かく理解しようと支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族へは介護計画の見直し時期をお知らせし面会の場を設けている。遠方の家族にはFAXなども利用し対応している。主治医の指示のもと毎月のスタッフ会議でプランを作成している。本人の希望は日常の様子や会話から日誌へ記入したものが計画作成時に取り入れられている。モニタリング表、会議記録、ケアプラン原案作成まで書類がきちんと整理されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期3ヶ月ごとに見直しが行われている。毎月のモニタリングの状況に応じた見直しや日誌から介護計画内容の状況変化が確認できるよう記録されている。また、定期検診など医師の判断に応じて介護計画の変更も行っている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望で法事や墓参り、外食、外泊等対応できている。行きつけの美容院や買い物等も即対応できる。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診でき、整形外科、眼科、歯科、皮膚科等の協力医もあり、希望の病院で定期的な受診ができる。夜間の診療もすぐに対応できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意向を聞き、ターミナルの指針の承諾書を交わしている。また重度化した場合は、法人内の他ユニットへの転居もでき最期まで看取りの支援ができている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は入職時に個人情報守秘義務の誓約書を書いている。家族からは個人情報保護法遵守の家族の同意書をえている。個人情報の記録や書類は事務所内の利用者や外部の人の目に触れない所定の場所に保管している。利用者に対する声かけや誘導には、十分に気配りをし支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のしたい事を朝から本人のペースで聞き出しており、申し送りにより意向を共有し支援している。耳や言葉の不自由な利用者には、身振り、手振りで伝えたり、表情から思いを汲むように努めている。		

グループホーム 本原一丁目

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食材を把握し、とろみ食やアレルギーにも対応できており、食事量の加減も食器の大きさを変えることで満足できるよう工夫されている。野菜の下ごしらえ、盛り付け等も一緒にしている。職員同じテーブルで食事を取り会話をしながら食事の介助を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっておらず、希望に合わせた支援ができています。体調により清拭、足浴などもしている。風呂嫌いや拒否があった場合は、トイレ誘導のついでに脱衣所へ案内したり、工夫しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好みに合わせ、洗濯物干し、たたみ、活け花、俳句作り、トランプ、カルタ、ゴミ箱作り、貼り絵や近くのスーパーへの買い物等の楽しみごとがある。日課として浮腫予防の足の体操も取り入れており、賑やかに談笑されている様子が伺えた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望で美容院やスーパーへの買い物、ホーム近くの公園等へ車椅子利用者も一緒に出かけている。職員も一日一回の外出を目標にし実行している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はせず、エレベーターも自由に利用できるように、職員は必ず見守り確認している。万一に備え、捜索マニュアルを作成し、自治会、警察、タクシー、バス会社に協力依頼の連携がある。		

グループホーム 本原一丁目

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春と秋に消防署の指導のもと訓練を実施し夜間想定避難訓練も行われている。緊急時対応マニュアルで初期行動や避難経路は常に確認されている。自治会や周辺との連携については運営推進会議で毎回話し合いが持たれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により食事バランスもチェックされ、食事量、水分量、排泄等は個人日誌で確認できる。申し送り水分補給が必要な利用者には、好みの飲料(水、お茶、紅茶、ジュース等)を把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には活け花や貼り絵の壁飾りで季節感を取り入れている。日当たりの良いリビングからベランダの花や野菜を眺め、すぐ前の公園の木々から季節を感じることができる。オープンキッチンから調理の匂いやまな板の音を聞き、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や椅子、家具等を持ち込み、家族と配置を変えたりしながら、それぞれ個性的な部屋となっている。温度、換気も利用者の状態に応じて調節されている。		

※  は、重点項目。